

2021年8月10日

## 2021年ICFO総会について（報告）

（一財）非営利組織評価センター

ICFOはInternational Committee on Fundraising Organizations（ファンドレイジング組織に関する国際委員会）の略称で、全世界19ヶ国のNGO・NPOの認証組織が加盟する国際組織である。ICFOは欧州評議会において諮問として登録されており、世界各国の認証組織が情報交換を行う場となっている。非営利組織評価センターは、日本唯一の認証機関として、加盟している。前理事長マルチナ・ジグラー氏は2016年9月に日本を訪れ、非営利組織評価センター主催の「米国非営利セクターの近況とNPO評価手法に関するワークショップ」にゲスト登壇している。今年も、新型コロナウイルス感染症パンデミックにより、オンライン会議システムzoomにて開催された。本報告書は、概略版として公開する。

※ICFO Web サイト：<https://www.icfo.org/>

### 1. ICFO 会議スケジュール

- 1日目 2021年6月10日（木）14：30～16：45（日本時間21：30～23：45）
- 2日目 2021年6月11日（金）14：30～16：45（日本時間21：30～23：45）

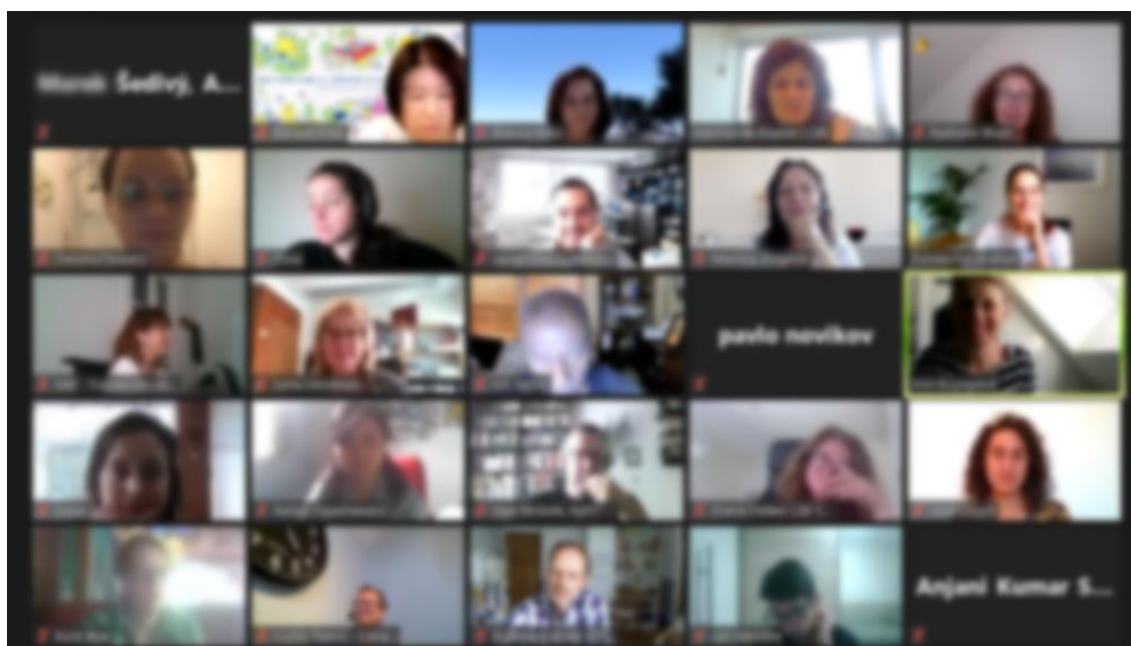
### 2. 参加国

ICFO 正会員 12国

イタリア、スウェーデン、アメリカ、カナダ、フランス、スペイン、台湾、ドイツ、メキシコ、オランダ、ノルウェー、スイス

ICFO 準会員 7国

インド、日本、オーストリア、ブラジル、チェコ、ルクセンブルグ、ウクライナ  
総勢19か国の参加があった。



### 3. アジェンダ

時間	1日目 アジェンダ
14:30	1.開会
14:40	2.アジェンダの承認 a) 2020年AGM（総会）議事録の承認 b) 2020年ICFOアニュアルレポートの承認 c) 2020年財務諸表の承認 d) 2020年取締役会決定の承認
14:50	3.大きな数字（2020Big Number）
15:00	4.コミュニケーション：ベストプラクティスとワーストプラクティス（広報活動）
15:20	5.ICFOウェブサイトについて
15:30	6.新型コロナパンデミックの対応と将来に向けて
16:15	7.米国におけるNPOへの影響
16:40	8.グループディスカッションの調整
16:45	終了
時間	2日目 アジェンダ
14:30	9. E-ラーニングとピアレビュー

14:40	10. 会費と 2022 年予算
14:50	11. グループディスカッション（ブレイクアウトセッション） テーマ①コミュニケーション：認証機関をどうモニタリングし、いかに寄付者と繋がるか。メッセージの伝え方、サポート方法など テーマ②ドナープロフィールの国際動向、過去とこれから
15:45	12. プレゼンテーション
16:15	13. 次回の ICFO AGM 2022 年 ICFO AGM について 2023 年 ICFO AGM について
16:25	14. 役員の状況
16:45	閉会

#### 4. 2 日間の概要

##### 【1 日目】

1. 議長(スペイン評価機関ベナビデス理事長)より、議事次第全体について説明。また、JCNE を代表して参加した太田理事長について、米国 BBB Wise Giving Alliance (以下、BBB) の Art Taylor 氏より紹介と歓迎の発言があった。

2. 2020 年度総会議事録、事業報告書、決算書、理事会の職務執行状況の説明と承認

3. 大きな数字 (2020Big Number)

ICFO 加盟 19 団体の主要合計数値 (2020Big Number) について議長より報告、以下主要計数。なお、中国が脱退したとのことであったが理由は不明である。(筆者注：数年前から中国は非営利組織、特に外国籍の NPO の国内 NPO に与える影響を警戒、外国 NPO の国内活動への厳しい規制を掛ける法律を公布している。)

1) 設立年度

1893 年～2016 年 平均 30 年 最短の 5 年は JCNE になっている。

2) スタッフ人数

0~22 人、平均 9 名

3) 財務

総収入 €1334 万 (約 17.3 億円 @ ¥130 換算以下同じ) 平均 9100 万円

総支出 16.6 億円、平均 8700 万円

4) 評価・認証シール

2020 年度評価件数合計 6,142 団体(平均 323)

2020 年現在認証シール賦与合計 3,896 団体 (平均 206)

#### 4. コミュニケーション：ベストプラクティスとワーストプラクティス（広報活動）

19 カ国のカントリーレポートから見られる各会員団体の広報活動としての各種イベントについて、効果的だった事例、失敗に終わった事例などの結果について紹介があった。また、Facebook, Twitter, YouTube, LinkedIn, Instagram の活用状況についてまとめたものの報告があった。

#### 6. 新型コロナパンデミックの対応と将来に向けて

ドイツ、ブラジル及びインドからパンデミックが自国(ドイツはヨーロッパ全域)非営利組織に与えた影響が報告された。ドイツでは寄付が 11.3%増加、ヨーロッパ各国も総じて増加傾向にある。また、小さな組織より大きな組織へ、国内組織より国際的活動をする組織への寄付が増加している。また、全般的に非営利組織がパンデミックにより財務や活動に支障をきたしている事例はむしろ少数派だ。ブラジルでは大統領の楽観的言動で悲惨な広がりを見せている。ワクチンも 4 千万人分輸入が取り消された。失業率も上昇、寄付に至ってはパンデミック前より 73%も減少した。インドも Covid19 は猛威を振っている。深刻な酸素不足に陥っているが、外国政府や外国 NGO からの酸素支援が続いている。これらの配分はわれわれ国内 NPO の仕事だ。比較的コロナコントロールが効いているヨーロッパ諸国、危機的状況にあるインド、ブラジル、いずれにおいても非営利組織の果たす役割が大きくなっているように見受けられた。

#### 7. 米国における NPO への影響

「Report on Charity Impact in US」と題し BBB のスタッフ Elvia Castro 氏からの報告があった。チャリティのもたらすインパクトとは何かについて確立した定義がなく、人によって理解が異なる。たとえば、①受益した人の数②受益者の満足度③量的大小④需要に対する達成率などである。BBB は米国で 2100 人、カナダで 1000 人を対象に、一般人が寄付する際に考慮する重要なポイントについてアンケート調査した。この報告は、その結果を示すものである。インパクトということ自体が何を指すのかわからない人も 47%いた。寄付する際の重要な基準は①信頼度②インパクト③財政状況という順番。その他、長期的なインパクトか短期的なインパクトか、プログラムの量か質かなど興味深いアンケート結果について報告があった。

### 【2日目】

#### 9. E-ラーニングとピアレビュー

2020 年は、E-ラーニングセッションの実施があり、主なテーマは、政府との連携、司法プロセス、企業での認証シールの使われ方などのほか、ソーシャルインパクトボンドや資金調達など多岐に渡った。内容も充実しており、様々な人とコミュニケーションが

取れたことが良かったと参加者から報告があった。

11. グループディスカッション（ブレイクアウトセッション）とプレゼンテーション  
テーマ①コミュニケーションに参加。認証機関をどうモニタリングし、いかに寄付者と繋がるか。メッセージの伝え方、サポート方法などについてディスカッションがあった。いかに寄付者と繋がるかについては、「認証機関のすべきこととして重要なのは、人々に寄付をするよう推進すること」といった話のシェアがあった。人は寄付について考えすぎるとあまり寄付しないという調査結果がある。認証機関はすでに、ウェブサイトや SNS など活用してメディアに情報を掲載していると思うが、情報提供は十分にしており、これ以上やらなくて良い。認証をブランディングして、メッセージを伝え、人々にもっと興味を持ってもらう、人と繋がる働きかけが重要だ。人々が寄付するように駆り立てる必要がある。そのために、一般人にチャリティ団体を知ってもらうためのセミナーをしている認証機関もある。NPO のブラックリストについても話題にあがったが、NPO セクターのイメージをさげしてしまうため、ネガティブキャンペーンはしないようにしているなど、内部でもっているだけの国がほとんどあった。facebook 広告についてドナーに知ってもらうために、有効であり、米国は facebook 広告を 12 月にしており、広告料も認証機関が払っていることがシェアされた。新聞や雑誌に載せるより SNS のの方が広がるため、認証団体を SNS で盛り上げることが提案された。小規模 NPO へのアプローチについて、認証を取れるようにバックアップサポートをしたり、プレチェックをしている認証機関があった。zoom や対面で説明して、認証に申請できるレベルかどうかアドバイスしている。そのステップがあることによって、小さい NPO はコストをかけず、トライできる。新規設立の団体は、認証を取るのに数年かかるのは当然だ。リソースが必要になる。小さい NPO が認証とれないのは、各国同じであるが、地道に認証取得によるメリットの説明が鍵になっている。各認証機関で、認証があることが強いという社会を作ろうとしており、わたしたち認証機関はどうしていくべきか、変わっていくべきなのか、現状維持で良いのかというなげかけなどもあり、各国で認証機関の在り方、存在意義を模索していることを共有する機会となった。

以上